

文科省指定事業を終えるにあたって（お礼）

研究推進部長 丹生 憲一

「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」の指定が終わります。この3年間、本校の総合的な探究の時間は大きく変わりました。…変えざるを得ないこともありました。

知の探究コースの看板であった探究活動を一般クラスにも広げ、地域の魅力・課題について全校生徒で考えるようになりました。「丹 BAL」という愛称は校内で日常的に使われています。個人的な人脈に頼っていた地域の人たちとの関わりは、鴻谷佳彦さん（NPO 法人 Imagine 丹波）の協力を得て組織的なものへと変わり、15人の外部講師の方に協力を得ることができました。研究内容、発表内容の充実を見ると、高畑由起夫先生（関西学院大学フェロー）、杉岡秀紀先生（福知山公立大学）からいただいたご助言、ご指導が随所で実を結んできたのを感じています。「丹 BAL 台湾」は台湾学習にとどまらず、台湾と比較して自分達のことを知るという活動に進化しています。後藤みなみさん（中華民国留日神戸華僑総会）、野嶋剛先生（大東文化大学特任教授・フリージャーナリスト）のお話から、「アイデンティティとはなにか」「くにはなにか」「日本が台湾から学ぶべきことはなにか」と考えました。台湾の高校生とはオンラインで2回（予定では3回）交流しています。修学旅行で台湾に行けなくなったとはいえ、スマートフォンやタブレットを利用した動画作成など新しい試みを取り入れ、日本の防災について発信することで、より深い交流へとつなげることができました。「コロナだからこそできることを」「コロナがあってもなくてもできることを」と模索した結果、「コロナがあったからこそ進歩した」ことも増えたように思います。「総合Ⅲ」は、「他己紹介」「面接練習」「小論文」という一連の流れを作ることができました。選択科目「グローバル」も2年目を迎え、グローバルサミットの企画・運営に携わるなど活動の幅がさらに広がっています。「Glocal High School Meetings 2022」の日本語発表部門において、金賞・文部科学省初等中等教育局長賞を受賞できたことは、3年間、いやそれ以前の4年間を含め、本校が取り組んできた探究活動の成果であると確信しています。

それでもまだ、課題は残っています。生徒の皆さんにとってというより、私達職員の課題になるでしょう。

「丹 BAL」をこの学校の看板にしていくには、「探究は探究、教科は教科」と捉えるのではなく、探究活動を通して学んだ「読み方」「聴き方」「伝え方」「発表の仕方」を各教科の学びと関連付けていく必要があります。「丹波市内三校で連携した活動を」という目標を、この事業の狙いの一角に掲げていましたが、学校としての取り組みは進んでいません。しかし、「高校生が創る丹波の未来への架け橋プロジェクト」は三つの高校の生徒が学校間の壁を越えて手を取り合い、地域の大人を巻き込んで見事ギネス記録を達成しました。これこそ、「自主的」「対話的」「協働的」な取り組みであり、大人ができないことを高校生の皆さんが成し遂げられたのです。その決断力と行動力に心から敬意を表します。

「丹 BAL」が柏原高校だけでなく地域の学びと広がっていきますように…。氷上高校が商品開発に取り組んでいること、氷上西高校が佐治地域で活性化に取り組んでいることが結びついて、「第2のモンブラン」になることを祈念して筆をおきます。

3年間、ご愛読ありがとうございました。



（イラスト 美術部 卒業生 谷川望実）

地域課題から世界を考える日（1）

（2）

（3）



最後に、今年度の各講座を振り返って生徒の皆さんの声を載せておきます。

丹 BAL 台湾 (野嶋剛先生の講演会后に…)

2年4組 坂上 花音

多文化をリスペクトする台湾であることを知ったので、訪れた際には意識して感じてみたいと思いました。電車でのアナウンスは特にそれを感じられると思うので一度聞いてみたいです。台湾の人々が多文化をリスペクトするのと同様に、私達日本人にとっても台湾や他国の文化を尊重することが大切だと改めて感じました。台湾を訪れる時には中国語や台湾語を少しでも覚えて、声に出して伝えたいと思います。今、学校の交流で繋がっている台湾の学生は熱心に日本語を勉強して、一所懸命に伝えようとしてくれます。その姿を見て、嬉しくなりました。台湾の人たちは温かいです。私も同じように思ってもらえるように、「リスペクトしている」という気持ちを伝えたいと思います。

探究Ⅱ (「地域課題から世界を考える日」に「カンボジアの算数教育から学ぶ」の発表を終えて) 2年1組 梅垣 朋宏

本当はカンボジアに行きたかったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で行けなかった。その分、教科書を取り寄せるなど工夫して取り組んだ。はじめは、カンボジアの教育は遅れているという先入観を持っていたが、探究を進めるにつれて、多くの新しい発見をすることができた。探究活動を通じて、テーマをどこまで絞り込めるかが大切だと感じた。はじめは「SDGs達成プラン」を提案しようと思っていたが、「カンボジアの算数教育から学ぶ」に絞ったことでより良い活動ができた。テーマ設定と同様に活動の時間も大切にすることで効率的に活動できたと思う。だから、探究の授業だけでなく普段から班員で濃い話し合いを行ったうえで早くテーマ設定を行えばよいと思う。まず世界の課題に目を向け、自分達にない視点が持て、それを地域課題解決につなげることができればよいと思った。

グローバル (スピーチ・プレゼンテーションを終えて…)

3年4組 澤 杏咲

1番初めにした活動はスピーチでした。テーマは「自分がpassionを持っているもの」でした。好きな映画の紹介や将来の夢など、それぞれが熱意を持っているものやことについてスピーチするという内容でした。スピーチをする時は、事前に用意した英文を丸暗記するのでは意味がなく、文の中のキーワードだけを覚えてそこから頭の中で英文を作った方が英語でプレゼンする力がつくというALTの先生のアドバイスもあり、まずは自分が伝えたいトピックごとのキーワードを決めることから始めました。そこからスピーチ練習の時間では何度も何度も英文を読み上げるのですが、ここでは抑揚の付け具合が特に難しかったです。日本人は普段の会話ではイントネーションやアクセントが常に一定なので、そこに抑揚や強調などを加えて外国人のように発言することはとても難しかったです。本番では、発表をした後に先生一人一人から感想やアドバイスを下さるので、反省点が何かがとてもよくわかりました。74回生のグローバル選択者は全員外国語大学へ進学するので、スピーチやプレゼンなど自分の言葉で伝える機会をたくさん経験し、世界に通じる英語力を身につけたいと思います。グローバルはその土台となるととてもいい学習になりました。

グローバル (グローバルサミットを終えて…)

3年1組 濱田 実季

私は3年間、地域活性化について取り組んできました。1年生の時は、身近にある無人駅を利用し地域活性化を考え、2年生はグループ研究で丹波市に移住者を増やす提案をしました。今年は探究してきたことを踏まえて自分が地域になにが出来るかを研究しました。地域活性化について勉強していると、地域の知らないことや新しい発見が沢山あり、いろんな場所や物に興味を持つことが出来ました。度々研究に行き詰まってしまう、次のステップに進めない時は先生や友達のが的確なアドバイスをくれ一緒に考えて下さいました。また、地域の方や研究に協力して下さいましたのおかげで研究をより深くすることが出来ました。今年の12月にグローバルサミットがあり、司会をしました。韓国や台湾、日本の学校とzoomで話す機会が沢山あり、海外や他の地域の人と交流し楽しい時間を過ごせました。英語で司会をするのは難しく慣れませんでした。友達と協力してとても貴重な経験をする事が出来たと思います。